

# 教育 だより

## 学校と家庭が一体と

## なつて学力向上を!

今年度も4月に「大分県学力定着状況調査」(対象：小学校五年生・中学校二年生)が行われました。その結果をお知らせします。

小学校は、全教科「知識」「活用」ともに県平均を上回ることができました。中学校では、国語・数学・理科は、県平均並みでしたが、英語に課題が残る結果となりました。(資料1・3)  
「わかりにくい分野の復習」「個別の指導・補充学習」「基礎基本の定着や活用力向上へ向けた授業改善」等のこれまでの取り組みが、確実に結果につながってきています。

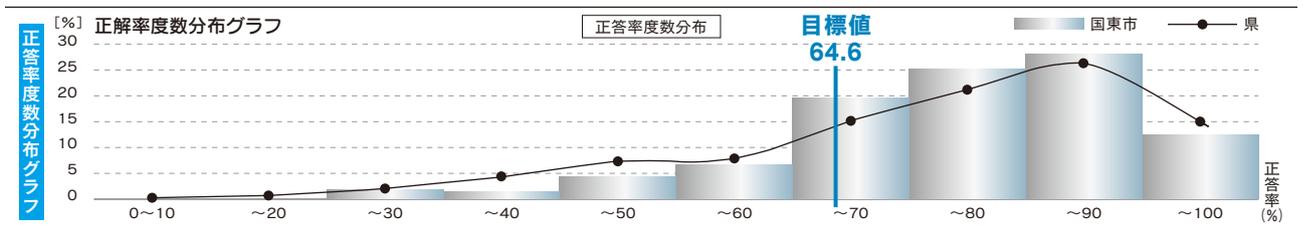
一方、正答率の分布グラフの結果からわかることは、小・中学校ともに目標値を上回るような指導をしていくことが大切であるということです。中学校では、目標値を下回る割合が多く、学力の二極化の実態が明らかになりました。(資料2・4)

(\*例示は、算数・数学です。他教科は、市HPをご覧ください。)

### ◆資料1 小学校：大分県・国東市偏差値比較

偏差値 (小5)	国語		算数		理科	
	知識	活用	知識	活用	知識	活用
大分県	51.4	50.2	52.0	51.7	50.9	50.7
国東市	52.8	50.3	53.2	51.9	52.2	51.5

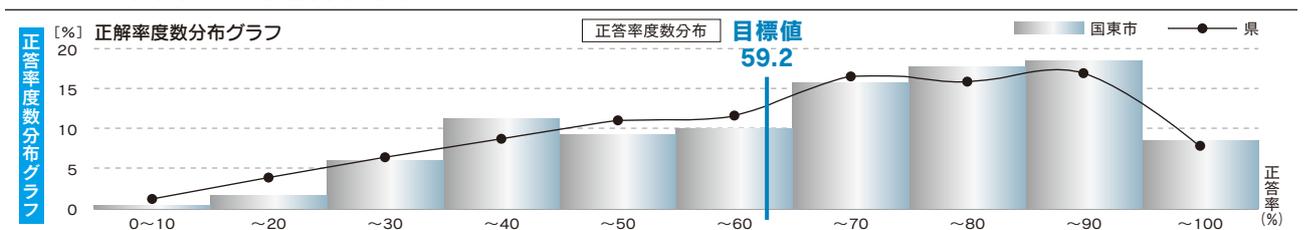
### ◆資料2 小学校：算数正答率分布



### ◆資料3 中学校：大分県・国東市偏差値比較

偏差値 (中2)	国語		数学		理科		英語	
	知識	活用	知識	活用	知識	活用	知識	活用
大分県	50.5	49.9	50.8	50.3	50.2	49.7	48.9	49.5
国東市	50.3	49.9	52.0	49.8	49.8	50.3	46.8	47.6

### ◆資料4 中学校：数学正答率分布



資料5は、これまで五年間の「大分県学力定着状況調査結果」の推移です。安定した学力の定着ができているとは言えません。特に英語の学力低下は深刻です。早急な対策を図っていきます。

正答率分布グラフからも言えるように、正答率四割以下の児童生徒の引き上げが重要です。特に中学校は、二極化傾向にあるので、これまで以上に下位部分の対応が急務だと考えています。

「児童生徒の意識調査」(資料6)の設問①②からは、国東市の児童生徒は、「意欲的で、将来に希望を抱いていること」。家庭学習についての設問③からは、「家庭学習に十分取り組めていないこと」。この二点が明らかになりました。

教育委員会では、このような結果を十分に受け止めるとともに、児童生徒の前向きな思いにこたえるため、次のことに取り組みます。

#### ①わかる・やる気の出る 授業の工夫改善

#### ②一人ひとりに応じた補充学習

#### ③家庭学習の習慣化の確立

特に家庭との連携は重要で、教職員と保護者が教育情報を共有し、子どもの成長を願い、「家庭生活」「家庭学習」の見直しを図っていく必要があります。